

専修大学北上高校との高大連携について ～普通科スポーツ専攻科目への出張授業～

吉田 清司 (法学部教授)

1. 高大連携の契機

2023年1月28日、専修大学スポーツ研究所(以下「本研究所」)は、専修大学北上高校(以下「北上高校」)のスポーツ強化と総合型地域スポーツクラブの取り組みや、普通科アクティブ・ラーニングコースにおける「スポーツ専攻カリキュラム」について学ぶことを目的に、佐藤満所長ら5名が北上高校を訪問して研修会を開催した。その際、北上高校生徒とも交流会をもつ機会があり、高校部活動をより有意義なものにするためのトレーニング論やメンタルマネジメントの質問が生徒から数多く上がり、活発な質疑応答で親交を深めた。

北上高校教員との研修会では、2023年4月から改編スタートする普通科アクティブ・ラーニングコーススポーツ専攻の説明を受けた。北上高校のカリキュラム改編のポイントは、生徒ひとりひとりの「未来を創る力」を育むことである。そのためには、①自分の学びたいことを自律的に深められる ②学びたいことと地

域・世界がつながり学ぶことの意味が見えることが大切であると考え、カリキュラム開発を行っていた。

また、高校側からは今後の継続的なカリキュラム開発および授業体制の構築と連携について、本研究所に協力依頼があった。研修会から帰学後、本研究所としては高大連携の一環として北上高校普通科授業に協力する方針を所員間で確認し、出張授業などについて学長室企画課と調整を図った。

2. 出張授業の概要

北上高校からの協力依頼について、学長室企画課としては本研究所に高大連携として応じてもらいたい意向で、所員が出張授業する際は大学授業をオンライン・オンデマンド対応にする、あるいは休講にしても補講対応とする範囲で、北上高校に出張授業に行くことを認めてもらった。

そこで、北上高校保健体育科から提示されたスポーツ専攻カリキュラムのシラバスに対し、高校教員では専門性をカバーしきれない単元や項目、または所員が専門領域とする授業に配慮して調整に入り、下表のように月1回程度、出張授業として所員が北上高校に出向くこととなった。

3. 出張授業の評価

北上高校の普通科アクティブ・ラーニングコースは、2023年度は2年生に35名が在籍している。35名全員が運動部に所属しており、将来はトレーナー、理学療法士、柔道整復師、体育教師などスポーツに関わる職に就きたいと考えている生徒たちで、体育系大学、理学療法士、柔道整復師の資格を取得できる学校への進学を希望している生徒がほとんどである。また、大学に進学して競技を継続希望の生徒も多く、自身のパフォーマンスをさらに向上させるために必要なことを学ぼうと取り組んでいる。

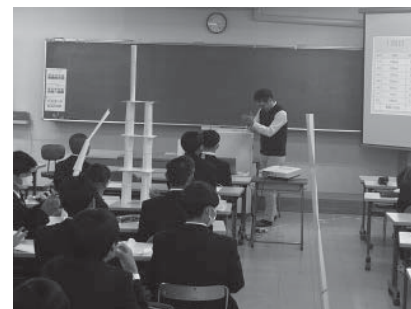
スポーツ専攻は、2年生では「スポーツ概論」が2単位、「トレーニング論」が2単位の週4時間授業となっている。2023年度は、本研究所所員が毎月北上に出張し、「スポーツ概論」



北上高校生徒との交流



北上高校教員との研修会



齋藤教授のチームビルディング出張授業
ペーパータワーゲームに取り組む生徒



時任教授の運動生理学出張授業

2023年度北上高校出張授業計画

出張日時	スポーツ専攻科目	担当
4月25日(火)	○スポーツの歴史・人類学	ネットワーク情報学部 佐竹弘靖教授
4月26日(水)	*チームビルディング：齋藤先生	文学部 齋藤 実教授
5月9日(火)	○スポーツに関わる職業について	経済学部 飯田義明教授
5月24日(水)	*運動生理学(身体構造・骨格・筋肉)	法学部 時任真一郎教授
6月21日(水)	*コーチング(マイクロコーチング)	商学部 富川理充教授
6月28日(水)	○スポーツ医科学(スポーツ障害)	経営学部 相澤勝治教授
7月25日(火)	○スポーツ心理学	文学部 平田大輔教授
7月26日(水)	*スポーツコンディショニング	文学部 齋藤 実教授
9月19日(火)	○データ分析(アナリストについて)	法学部 吉田清司教授
9月20日(水)	*トレーニングプログラム	商学部 柏木 悠准教授
10月18日(水)	○女性アスリート(スポーツの多様性)	経営学部 相澤勝治教授
11月28日(火)	○スポーツ栄養学	商学部 富川理充教授
12月12日(火)	○現代スポーツ(スポーツ社会学)	経済学部 飯田義明教授

注) スポーツ専攻科目の○は「スポーツ概論」、*は「トレーニング論」の授業

と「トレーニング論」の合計で13回の出張授業を実施した。2023年10月に行った生徒の出張授業評価では、ペーパータワーゲームや、骨格・筋肉系の名称を使用した特大かるた大会、スポーツデータ分析などのグループワークが好評で、高校側からは来年度も継続して出張授業をお願いしたいとの要望をいただいた。

2024年度は3年次に「スポーツ科学特論」2単位、「スポーツ総合演習」4単位の週6時間授業となる。「スポーツ科学特論」では2年次で学んだことをさらに深め、「スポーツ総合演習」ではスポーツを通じて幅広い年代の方と多く関わり、「スポーツを支える視点」と、「スポーツを行う場」を企画、運営できるような出張授業が期待されている。

話は変わるが、本学には附属高校が杉並、松戸、北上、熊本玉名の4校がある。過去30年の附属推薦入学者傾向は、杉並から約400名、松戸から約50名、北上から約20名、熊本玉名から約10名であり、北上高校は3番目の附属推薦入学者数であった。ところが、2024年度に北上高校は倍増の50名に増え、松戸を抜いて2番目に多い附属推薦入学学校となった。2024年度に専大への推薦入学者が増えたことに関して、北上高校の阿部伸校長は、「スポーツ研究所の先生方による公開スポーツセミナー（後記）や出張授業が大きな効果があった」と語ってくれている。

出張授業による授業体制の構築とともに、附属から専大に進むということ意識した高大連携のサポートをした結果、メリットは高校側大学側が双方にあったと考えられる。高校側のメリットは、高大連携を行うことで、大学について早い段階から知り、学生の進路選択にギャップが生じにくくなる効果がある。高校生が出張授業の講義に触れることで、どの学部でどんな内容のことを学ぶことができるかをイメージすることもできる。大学側のメリットは、出張授業を通じて大学の魅力や大学教員の専門領域を高校生にアピールすることができた。また、出張授業を通じて現代の高校に

おいてどのような教育が行われているかを把握し、大学における教育に役立てることもできる。本学と附属高校との連携は今後ますます重要となり、高校教員と大学教員の相互理解を促進していくための交流・連携ネットワークが様々な形で構築されることが必要となるであろう。

2024年度北上高校スポーツ専攻3年次の教科書には、本研究所が編集した「大学生のためのスポーツリテラシー&ウェルネス」（日本文化出版）を使用する方針で、本研究所を通じた高大連携がスムーズに展開されることも期待できる。高大連携においては、生徒一人一人の能力・意欲を踏まえつつ、教育的観点から、積極的に大学レベルの教育に触れる機会を生

徒に与えていくと同時に、それらの成果をフィードバックした大学教育を展開していくことが重要である。

4. 市民対象の公開スポーツセミナーの開催

所員の北上出張では高校生に授業をするだけでなく、北上市民を対象に「スポーツと自己実現」のテーマで、7回の公開スポーツセミナーを開催した（下表）。年間を通したセミナーは、スポーツからの学びを広く地域の皆さんと共有することで、地域におけるスポーツ文化の向上を目指したもので、地元新聞にも掲載されるなど好評であった。

普通科アクティブ・ラーニングコース スポーツ専攻カリキュラム

2年生		3年生	
スポーツ概論 (2単位)	筋・骨格の構造、エネルギー供給のメカニズム等の身体の仕組みから、スポーツの社会的・経済的な意義や多様な関わり方、それに関する課題等、幅広い視点でスポーツを学ぶ。 ・スポーツの歴史・人類学・社会学 ・スポーツ医学・体力トレーニング ・スポーツライフのマネジメント	スポーツ科学特論 (2単位)	スポーツをより科学的に掘り下げ、探求的にスポーツを学び、実際にスポーツを支える現場に必要な知識・スキルの習得につなげる。 ・健康スポーツ ・子どもとスポーツ ・体力測定 ・筋力測定 ・スポーツトレーナー学 ・マイクロコーチング ・スポーツ経営学 ・卒業論文
トレーニング論 (2単位)	年代別・目的別の効果的なトレーニングに向けた基礎的な知識を身に付け、自分のパフォーマンス、そして他者への効果的な指導につなげる。 ・スポーツ生理学基礎 ・目的に応じたトレーニングの実践 ・トレーニングメニューの作成 ・メンタルトレーニング講習	スポーツ総合演習 (4単位)	「スポーツを支える」をテーマにトレーニングメニューの設計、スポーツプログラムの企画・運営など、幅広い年代や目的に合わせたアプローチをもとに多様なスポーツとの関わり方を学ぶ。 ・多様な目的に応じた指導法 ・さまざまなスポーツ教室の企画・運営 ・スポーツツーリズム

公開スポーツセミナー

開催日時	講演テーマ	担当
4月24日(月)	自己実現を夢見た箱根駅伝 一駅伝の父 金栗四三の足跡	初任情報学部 佐竹弘靖教授
5月8日(月)	アスリートのキャリア形成と社会変容	経済学部 飯田義明教授
5月24日(水)	スポーツに活かすストレスマネジメント	法学部 時任真一郎教授
7月25日(火)	アスリートのメンタルマネジメント	文学部 平田大輔教授
9月19日(火)	動きの仕組みからトレーニングを考える	商学部 柏木 悠准教授
11月27日(月)	トレーニングにおいて「測ること」の重要性	商学部 富川理充教授
12月11日(月)	地域社会におけるスポーツの役割とは？	経済学部 飯田義明教授



富川教授の公開スポーツセミナー



地元の新聞で紹介された佐竹教授の公開スポーツセミナー (岩手日日新聞2023年4月26日)